JWF ファンド 2023の完了プロジェクト概要

Mbororo共同体の水源池改修（カメルーン）

- 実施団体：　Support Humanity Cameroon(SUHUCAM)
- 実 施 地：　カメルーン Ngoketunjia県 Bamunkumbit村 Upper Manjom 地区
- 費　　用：　2,236.29ドル（JWFファンド1,500ドル、団体 736.29ドル）
- 受益者数：　1,000人（男性200人、女性350人、子ども450人）
- 実施地の水問題：
  放牧民のMbororo族が居住する地域は、生物多様性が豊かな自然環境だった。しかし、気候変動や山火事、樹木の乱伐などで、多くの水源では消失・劣化や動物侵入汚染が発生した。現在の住民約1,000人の多くは女性と子どもで、乾季には十代の子どもたちが3km以上歩いて飲料水を求める水不足に直面していた。伝染病、腸チフス、下痢、赤痢などの水系感染症が増加していた。また、子どもたちが水探しに多くの時間を費やして、学校に遅刻して学業成績にも悪影響を及ぼしていた。

【実施前】

水源池に水汲みに来たMbororo族の家族

【実施中】

受水槽工を見届ける住民

【実施後】

引渡式、共同体指導者たちと実施団体

- 主な活動内容：　初回ミーティング、衛生管理プログラム実施、水源池整備、植林と周辺の整備、水管理委員会の設置。
  水源池に5,548リットル受水槽（2m×2m×1.8m）と壁型立水栓（給水栓2個付き）を建設した。
- 持続可能な活動：　住民による水管理委員会が維持管理を行う。水管理委員会は、地域行政の指導により持続性を持つ。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Mbororo共同体の水源池修繕（カメルーン）

壁型立給水栓の現状

【現状】

・2025年11月4日のフォローアップ調査時点で、給水栓は計画どおりに機能していた。30人以上の女性が、受水槽で確保された水を利用して乾季に家庭菜園を行っていた。これにより、世帯収入が増加し、栄養状態が改善され、女性たちのエンパワーメントとなていた。給水栓と取水設備は多少損傷を受けたが、修理済だった。
・受益者は正しい施設の利用に務めたが、地域で初めて設置された立水栓だったため、子どもたちの間で予想外の大きな興奮を生み、設置から最初の3か月以内に子どもたちが水栓を破損した。こうした子どもによる水栓損傷は、3回報告された。
・この施設は、Mankon文化・開発協会の監督のもと、Mr. Abdou Ibrahim委員長をとする7名の水管理委員会によって運営されていた。委員会は、取水地周辺で清掃活動を組織し、維持管理の技術はMankon文化・開発協会と協力していた。汚染を防ぐための放牧侵入防止啓発活動を行っていた。清掃費用はMankon文化・開発協会が負担していた。

水汲み状況

【変化】

・地域内での衛生教育以降、手洗いに対する意識に顕著な変化が見られた。子どもを含め、人々は手洗いをより意識するようになった。3世帯のうち2世帯は、家に水を長期間貯めずに、毎日水源へ汲みに行くことを好むようになった。
・Ms. Habibah Manouは、施設建設前に比べて、子どもたちが水系感染症にかかることが少なくなったと話した。ただし、3歳未満の子どもたちは依然として水系感染症の影響を受けやすいと述べていた。具体的な統計は提供されなかったが、Baptist 連盟診療所によると、過去1年間で担当するManjom地区の水関連疾患の発生は大幅に減少した。

湧水量が多く受水槽から越水する様子

【その他】

・その後SUHUCUMはWASH施設を建設していないが、共同体への持続可能な水のアクセスを向上させるため、別途この流域および取水地域の修復プロジェクトを実施している。
・限られた資源が、直面している最大の課題。今回はJWFファンドの助成金により、何千人もの女性と子どもたちに清潔で安全な飲料水へのアクセスを提供することができ、水に関連する病気への脆弱性を減らすことができた。今回の助成プロジェクトは、協力と資源さえあれば、世界中の誰もが安全な飲料水を利用できるようになることの証である。

JWF ファンド 2023のフォローアップ調査結果

Mbororo共同体の水源池修繕（カメルーン）

現場からの声（抜粋）

Mr. Ardo Aliyu（58歳 地域共同体首長）

地域共同体首長のMr. Ardo Aliyuは、この地域では多くの人々の意識が高まり、手洗いをするようになったと証言した。今回の施設ができる前は、手洗いはしばしば軽視されていた。今では、乾季になっても清潔な水が豊かに利用できて、ほとんどの住民が家庭用に毎日水を汲みに行き、共同体の水系感染症発生率は減少した。彼は、「蛇口からの水は既に多くの人々の助けになっているので、近隣の共同体の方々にも水の供給を拡大していくことが重要だろう」と述べていた。多くの世帯では生活が改善され、収入に変化が見られた。これらの変化はまだそれほど明らかなものではなく、数値化されてはいない。しかし、Mr. Ardo Aliyuによれば「以前は病院に支払っていたお金を、今では栄養の改善や家族の必要事項に使われるようになった」と述べた。

Mr Adbou Ibrahim（32歳、水管理委員会委員長）

7人の水管理委員会のうち、4人が実際に定期的に会議に出席して熱心に活動していた。彼らは共同体に呼びかけ、取水地域周辺の清掃活動を行っていた。損傷があれば管轄部署に報告して、保守作業時には地元技術者を支援していた。Abdou委員は、牛や羊侵入の管理を特命担当していた。「人的資源は委員たちと共同体が労働力を提供して、資金面はMankon文化・開発協会がすべての費用を負担しています。」「この施設はこれまでに3回修理されました。修理は軽微なものでした。しかし、雨季には取水施設が水であふれると観察されています。2025年8月、雨季の最盛期に給水パイプが損傷したときは、共同体で修理しました。」

共同体の方に聞き取り調査

Ms. Habibah Manou （45歳、受益者）

「私はこの施設を毎日利用しています。とても嬉しく感じています。この共同体でははじめての形式の水施設であり、みんなとても喜んでいます。そこの水が最初に使えなくなったときは、2週間も水がなくなりとてもひどい目にあいました。それ以来、子どもたちに施設を大切に使うよう教育しています。」「私は子どもたちに手洗いをするように勧めています。また、現在私たちが飲む水はすべて間違いなく蛇口から汲んだものです。」「私の家族は蛇口の最も近くに住んでいて、おかげで大いに助かっています。以前のように頻繁に病院に行かなくなり、今では夫はそのお金を使って家族に食料や服を買えるようになりました。」